

えほん👑世界のおはなし

# マツチウリの少女

永田 萌●絵 立原えりか●文



〈著者紹介〉

**永田 萌**（ながた もえ）

1949年兵庫県生まれ。1978年の「もえと妖精たち」以後、多くの絵本・画集を発表。1987年、エッセイ画集「花待月に」（偕成社）でボローニャ国際児童図書展グラフィック賞を受賞。「うみのいろのバケツ」「さくらいろのハンカチ」（いずれも講談社）など絵本作品のほか、「うたたねうさぎの見る夢は」（大和書房）など、エッセイも多数。

**立原えりか**（たちはら えりか）

1937年東京都生まれ。1957年に自費出版した童話集「人魚のくつ」が、児童文学者協会児童文学新人賞を受賞。1961年、講談社児童文学新人賞を受賞し、受賞作は「でかでか人とちびちび人」（講談社）として刊行される。以後、童話・エッセイ・翻訳に幅広く活躍。「立原えりかのファンタジーランド」全16巻（青土社）など著書多数。



**えほん<sup>世界</sup>のおはなし<sup>12</sup>  
マッチうりの少女**

N.D.C.726 32p 26cm

1999年12月1日 第1刷発行

絵◎永田 萌（ながた もえ）

文◎立原えりか（たちはら えりか）

AD◎坂川栄治

デザイン◎藤田知子（坂川事務所）

発行者◎野間佐和子

発行所◎株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21 郵便番号112-8001

電話／東京03-5395-3534（編集部）

東京03-5395-3625（販売部）

東京03-5395-3615（製作部）



印刷所◎共同印刷株式会社

製本所◎大村製本株式会社

©Moe Nagata/Erika Tachihara 1999 Printed in Japan (児幼)

落丁本・乱丁本は小社書籍製作部あてにお送りください。  
送料は小社負担にておとりかえいたします。なお、この本についてのお問い合わせは児童局幼児図書出版部あてにお願いいたします。  
本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。  
定価はカバーに表示してあります。

ISBN 4-06-267062-3

えほん  世界のおはなし

# マッチうりの少女

永田 萌●絵 立原えりか●文





# マッチうりの少女

いち 1ねんの さいご，おおみそかの よるです。

くらく になった 町に 雪が ふりはじめました。



まっちうりの おんなの こ子が ひとりで あるいて います。

「まっちを かって くださいな。」

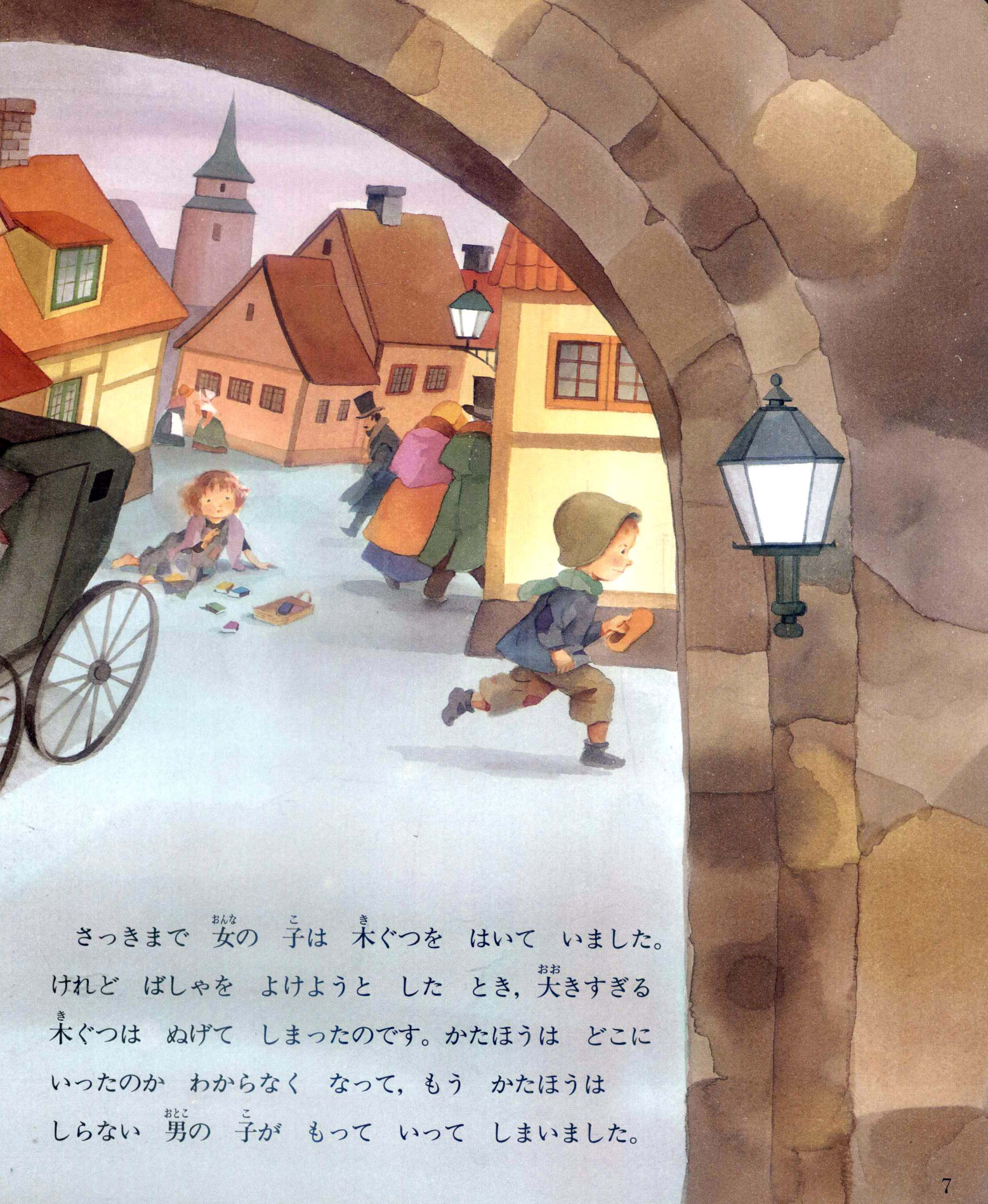
たのんでも たちどまる ひとは いません。まっちは  
ひとつも うれませんでした。

ぼろぼろの ふくを きた おんなの こ子は はだしです。









さっきまで <sup>おんな</sup>女の <sup>こ</sup>子は <sup>き</sup>木ぐつを はいて いました。  
けれど ばしゃを よけようと した とき、<sup>おお</sup>大きすぎる  
<sup>き</sup>木ぐつは ぬげて しまったのです。かたほうは どこに  
いったのか わからなく なって、もう かたほうは  
知らない <sup>おとこ</sup>男の <sup>こ</sup>子が もって いって しまいました。



ならんで いる いえの まどには、あかりが ともって います。  
おいしそうな においも ふんぷんして います。おおみそかの  
ごちそうの においでした。

「ああ、おなかが すいたわ。それに、なんて さむいのかしら。」  
おんな こ  
女の 子は、ふるえながら つぶやきます。





どんなに おなかが すいても、  
どんなに さむくても、<sup>おんな</sup>女の <sup>こ</sup>子は  
いえに かえる ことが できません。  
<sup>まっ</sup>マッ<sup>ち</sup>ちを うらずに かえったら、

● おとうさんに ひどく ふたれるからです。

「ここなら すこしは あたたかいかしら。」

おんな  
女の子は、いえの かげで

ちぢこまりました。



さむさは ひどく なるばかりです。手も 足も こんごえて、  
うごかす ことが できません。

「マッ<sup>ま</sup>チ<sup>ち</sup>を すれば、あたたかく なるわ。」

おもいついた <sup>おんな</sup>女の <sup>こ</sup>子は、マッ<sup>ま</sup>チ<sup>ち</sup>を <sup>いっ</sup>1ぽん すりました。





しゅっ  
シュッ！ と おとが して、あたりが あかるく になりました。  
ちい ひ  
小さな 火が あたたかく もえあがります。女の 子は、  
おお すとーぶ き  
大きな ストーブの まえに いるような 気が しました。